



かがやく浜の子

令和元年度2月号

令和元年度重点目標 気づき 考え 行動する子「自分から みんなへ」

気づき 考え 行動する子

2月1日(土)、2日(日)の二日間、「家族ふれあいの日」を設定させていただきました。そして、多くの保護者の皆さんから、ふれあいの内容についての御回答を得ることができました。ありがとうございました。時節柄、家族一緒での遊びのみならず、豆まきや手巻き寿司など節分に関わるふれあいも多く、ほほえましく感じながら読んでいるとき、一つの回答に目が留まりました。

2月1日は、支援センターで節分の豆まきがありました。勉強になると考え、子供たちだけで参加させました。予定より早く終了しましたが、6年生のお姉さん、5年生、3年生のお兄さんが家まで送って来てくれました。

今の時代、携帯電話でやりとりすることも簡単です。でも、便利なものがないとき、それなりに自分で考え、上級生たちも協力してくれて、感動的な1日でした。

白羽というやさしい地域に住んでいることを幸せに感じています。

読んでみて「素敵だな」と感じたことが3つありました。一つ目は、「下級生を思いやる行動」です。お兄さん、お姉さんから受けた親切な行いは、きっと心の中に残り、自分が上級生になった時、今度は自分がそのように下級生に接することができるように思います。

二つ目は、「自分たちで考え協力して行動」したことです。これは、これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な力です。かつては、知識や技能を覚えることが学びの中心でした。しかし、これからは、課題に進んで向き合い仲間と協力して解決していくこと、目的を達成するために、新しい価値を構築していくことが求められています。今回の場面ではきっと、どうしたらよいのかをみんなで考え、最善と思われることを行動に移し、1年生を安全に家まで送り届けるという目的を達成したのだと考えます。

三つめは、白羽という地域への愛着を感じることです。学校での教育活動はもちろん、地域での行事など、子供たちは多くの地域の皆さんの教えや支えを受けて、成長しています。そのことへの感謝の気持ちが伝わってきます。

今年度も終わりに近づいた時、白羽小の重点目標「気づき 考え 行動する子」が、具現化されたような子供たちの姿を知ることができ、嬉しくなりました。

※

節分に関わって「自分の中の追い出したいオニをやっつける」という活動を行った学級もあります。その内、幾つかの学級が、子供たちの追い出したいオニを掲示していました。

見てみると、多かったのは「ゲームオニ」。やめなくてはいけないのに、ついついやめられなくなってしまうのかもしれない。続いて「ねむいオニ」。寒い時期ですので、朝、布団から出ることに苦勞しているのだと思います。そして「いらいらオニ」。この三つのオニには、相関関係もありそうです。

心の中のオニを退治するには、「学校だより1月号」で紹介したような「小さな勇気」が必要です。子どもたちは日々「小さな勇気」を発揮しよう、おうちの方は発揮させようと努力されていることを応援したいと思います。(文責 校長)



